

○安達澄君 本日は、お忙しい中、大変ありがとうございました。無所属の安達澄と申します。どうぞよろしく願いいたします。

三人の参考人の方の一つずつ質問をさせていただきます。

最初に、大山参考人に質問させていただきます。

サイバーセキュリティーに関する話なんですけれども、自然災害とかのそういうレジリエンスということで、非常に話題には、対策等は取られているんですけれども、実際にそういう電力システムに対してそういうサイバー攻撃、例えば東京五輪・パラリンピックありますけれども、来年になりますけれども、実際、ロンドン五輪があったときとか、そういった攻撃が数億回あったという話も聞いております。

これから新しい電力のプレーヤーが各地でいろいろ育ってくるときに、今の日本というのはそういった攻撃に対してもしっかりとレジリエンスが、これからの部分はもちろんあるかとは思いますが、大手電力を始め、そういう新しいプレーヤーに関してでもできるのか、そういう対策がちゃんと取られようとしているのか、その辺をまずお聞かせいただければと思います。

○参考人（大山力君） サイバーセキュリティー、これ非常に大事だと思うんですけれども、その前に、自然災害についてというのと対峙するものは人からの災害ということですね。それは、サイバーだけじゃなくてテロも一緒だと思うんですけれども。

実は、日本の電力会社のこれまでの考えでは、テロに対する強さって余りないと思うんですよね。例えば、中央給電指令所、どこにあるかというのはこれ非常に大事なことで、そこに攻撃があったら非常にまずいんですけど、日本で

はみんなどこにあるか知っているという困った状態になっているのかなというふうに思います。

そういう意味からすると、人的災害に対する備えというのは、基本的にそんなに一生懸命やっているわけではなかったんじゃないかなというのがちょっと心配される場所ではあります。サイバーセキュリティーもその一種だったということなので、より一層頑張っていたらいいというのが基本的にあります。

その上でですけれども、私も情報通信の専門家ではないので本当のところはよく分からないところがありますけれども、ほかの国に比べますと、日本の電力会社の通信網とかそういうところはかなり専用線を使っているというふうに聞いていますので、汎用のものを全て使っているのに比べれば強いのではないかなと。済みません、私も専門外なので期待しているという程度ですけれども、そんな状況かなと思っています。

以上でございます。

○安達澄君 ありがとうございます。

じゃ、続いて、崎田参考人にお聞きします。

私の地元は大分県の別府市なんですね。そうすると、やっぱり温泉とかバイナリーの発電、今地元でいろいろ頑張っているんですけど、可能性も非常に感じています。

これまでも地産地消、そういう地域づくりの話がありましたけれども、崎田参考人の資料、事前にちょっといただいてそれ読ませていただく中で、そういう成功事例の一つとして長野県の飯田市ですかね、を挙げられていたと思います。ちょっと詳しくは書かれてはいなかったんですけども、もしそういった成功事例、先ほどのちょっと人の面とかも含めて教えていただければと思います。

○参考人（崎田裕子君）　ありがとうございます。

今、長野県飯田市のお話をさせていただきました。実は、再生可能エネルギーを地域で使っていこうというような動きのはしりというか、一番早い時期からやっておられる地域で、そこでなぜ多くの方に情報が広がっていくのかというのは、やはりシステムとしてきちんとやっておられるということがあったと思います。

最初に、普通は太陽光パネルは自分の家に設置をして自分の家庭で使うという、あるいは余剰、余剰というか流していくとか、そういう話だと思うのですが、けれども、まず、幼稚園とか保育園、公共施設、そういうところの屋根を借りて、それでみんな、おひさま発電所ということをつくっていった。地域の方にも見て分かる、みんなで作っているんだということが分かる、そして仕組みの上でも、それをまとめて系統に流していく、あるいは使っていくということを明確に取り組む。途中から、そういう動きに対して金融機関が資金を援助するというようなことをやり始めたのも最初の地域だったというふうに思っています。

そういうような仕組みとしてきちんと成り立たせていくという力と、地域の方に、自分たちの地域がおひさま発電所になっていくんだという、そういう何か楽しさ、喜びを広めていったという、その両面が非常に地域の特徴なんではないかなというふうに思っています。

○安達澄君　今の話でいきますと、やはりそういう核となるキーパーソンがいらっしゃったということになるんですか。

○参考人（崎田裕子君）　ありがとうございます。

キーパーソンもちろんおられますけれども、その人が一人でやっていると

いうよりは、その方、そういう地域型のキーパーソンの方と、技術の分かる方や金融機関の方、そして行政の方、みんなが力を合わせて地域の中でそういう輪をつくったという、やはりそういう地域のネットワークをつくる力、これも大事なんだというふうに思います。

○安達澄君 ありがとうございます。

じゃ、大橋参考人にお聞きいたします。

冒頭の十五分の中でのお話になるんですけども、最後の地域政策の要となる電力政策、その部分です。

ちょっと思ったんですけど、活用できる電力データを地域問題解決にどう生かすか知恵を絞る、あと町づくりに生かすというふうにおっしゃっていたかと思うんですけども、電力データをその町づくりに生かすというのは、具体的に言うとどういうことなのかをちょっと教えていただければと思います。

○参考人（大橋弘君） ありがとうございます。丁寧にフォローしていただいて、ありがとうございます。

例えばですけど、例えば、空き家問題とかというのもあると思うんですが、その空き家について、その電力データ、実際には空き家かどうかというのなかなか特定するのが難しいケースもあるんだと思いますけれども、犯罪とかそういうのとは関係なく、空き家かどうかということをつかむということも多分できるでしょうし、あるいは店舗なり工場なりの稼働状況というものを得ることで、先ほどAIとか使ってそういうふうなものを効率化するというお話もさせていただいたところではあったんですけども、もう少しほかの、人の流れをつくっていくようなことを町の中で検討するのに、その電力データというものが一つ核となってでき得るのではないかということも恐らくあるんだと思います。

当然、個人情報の問題は前提としてはあると思いますので、そうしたものがクリアされないといけないですけども、そのほかにも物流であれば再配達の問題というのがありますけれども、そうしたものをある程度統計的な処理をすることで、在宅の可能性というものをある程度地域別に知ることができるとかですね。

ここの辺り、事業者さんの使い方、個人情報を分からないようにしながらどうやって使っていくのかという工夫が必要だと思いますけれども、一応、人の動きが取れる一つのデータではあるので、そうした電力のデータをほかのデータ、移動データってほかのプラットフォームさんもお持ちなので、そうしたものと突き合わせながら、工夫することというのは恐らくできるのではないかなというふうなところの御提案ではございました。

ありがとうございます。

○安達澄君 今日は大変勉強になりました、本当ありがとうございました。

ちょっと短いですが、終わります。ありがとうございました。